

会 議 録

会議名	第3回 宇都宮駅東口地区整備推進懇談会	
開催日時	平成22年8月30日(月) 午後3時～午後5時	
開催場所	宇都宮市上下水道局 5階大会議室	
出席者	委員	石井清, 古池弘隆, 林香君, 柿沼賢, 須賀英之, 森本眞司, 安藤正知, 中津正修, 大森郁雄, 今井源一, 南木成夫, 荻美紀, 酒井誠 (13名)
	事務局	総合政策部長, 総合政策部次長, 地域政策室長, 駅東口整備室長, ほか5名
公開・非公開	公開	
傍聴者	0名(報道関係者3名, 関係者1名)	
次 第	1 開 会 2 会長挨拶 3 経過報告 4 議 題 (1) 宇都宮駅東口地区に求められる役割・整備の基本方針 (2) 宇都宮駅東口に導入する中核機能の可能性について ①民間事業者へのヒアリング結果について ②シティセールス機能(コンベンション施設)の分類と整備の方向性について (3) 導入機能の抽出等について 5 その他 6 閉 会	
会議の結果	1 本日いただいた意見を踏まえた検討を進め, 次回は平成22年11月下旬頃開催する。 2 年度内を目標に駅東口地区整備の方向性として提言書をまとめていく。	
発 言 要 旨		
議事(1) 宇都宮駅東口地区に求められる役割・整備の基本方針		
石井委員	「北関東の中心都市として」という言葉が何箇所か出ており, 将来の道州制を睨んでのことかもしれないが, その前に栃木県における位置付けが盛り込まれていない。栃木県の拠点としてネットワークがしっかりできた後に北関東の拠点を指すものだと思う。	
事務局	資料的には足りない部分があったが, 広域ネットワークということで都市計画マスタープランの中でも北関東や首都圏の中での栃木県のありかたを示している。また, 北関東自動車道も水戸まで伸びており前倒しで群馬までつながる計画となっていることや栃木県の優位性及び宇都宮市が栃木県の中心になるということを資料に追加していく。	
古池会長	資料での説明が十分でなかったが, 今説明された部分も含め県内の中心となる文言を加えること。	

酒井委員	自動車交通への依存による中心市街地の衰退の問題を弱みとする一方で、北関東自動車道が北関東の広域交通の軸になっているとの強みは若干矛盾しているように思える。昔から群馬と栃木が世帯あたりの車の保有台数が多いというが、現在の本県の順位は全国で8位まで落ちている。また、人口一人当たりの県民所得においては、大阪について全国6位に入っている。これは法人所得も含まれるものであり、地域全体の経済力を示している。景気が衰退し、建築関係でも悪いといわれているが、全国的に見て本県が上位に位置している。今後これらのデータとの関係性も考えていく必要があると思う。
古池会長	自動車依存と北関東自動車道については、都市間と都市内を踏まえる必要がある。また、世帯あたりの車の保有台数については、県レベルなのか市レベルなのかで変わってくる。
事務局	公共交通と自動車との役割分担については、物流系のものであればこれからモーダルシフトで鉄道輸送との方針を国でも出しており、自動車に過度に依存しないという意味で広域交通をうまく利用しながら公共交通との役割分担をしていきたいと考えている。
古池会長	昨年の高齢者による交通事故の割合は約半数を占めており、高齢化社会において車を利用し続けることはできなくなることから、今後の対応として公共交通が必要となる。
中津委員	駅東口の整備はコンパクトシティのための考え方があるが、北関東クロスコリドール構想の中でオーシャンコリドールやセンターコリドールのような展開がありそのような大きな枠組みの中で宇都宮の果たすべき役割を考え、駅東口の整備についてももう少し大きな枠組みの中で捉えられないだろうか。県内の産業や宇都宮市の産業を海外に対してどう目を向けさせるか、そういった拠点的なものをもう少し入れ込む必要がある。国の政策面において環境問題や弱者対策が必要なのはわかるが、産業が発展していかなければそれらに対する資金も出せないし、財政上バランスがうまくいかない。また、海外や県外から産業を呼び込むことも考えなくてははいけない。産業界から見たときにアメリカやアジアに向けて新しいコネクションを作り出せるようなそういったものを拠点としての考え方に入れられないのだろうかと思う。
古池会長	前回のグループ七七八における計画の中では、産業情報機能が入っていたが、今回それがトーンダウンしている。最近の動きを見ていると新しくできた茨城空港においては国際観光を目指しており、中国からの医療観光など新しい産業が出始めている。このようなことから、駅東口の役割も含めてどういったスタンスで行くのか考える必要がある。
事務局	県都として情報発信していくことが必要。産業支援において、平出と清原を含めてその地域の産業に対する支援のための情報発信もあるが、外国の方に宇都宮市の産業を知ってもらったり進出してもらったりするためや取引を行うための国際的に開けた情報発信機能をもってくるべきではないかと考えている。また、観光においても後で議題になるがコンベンション施設整備による国際会議のアフターコンベンションをどのように取り込んでいくかなど、国際社会の状況を見極めるとともに積極的な選択をしていくべきと考えており、資料には十分に出ていなかったが、今後文章表現等を検

	<p>討していきたい。</p>
中津委員	<p>宇都宮の未来像というものを明確にするために、今回は、東口を基点に考えている。大きな枠の中で東口を考えていかないといけない。宇都宮に來れば新しい起業ができるというようなゲートシティとしての役割を期待できる場所だと思っている。もっと大きな開発を視野にいれ、きちんとした方向性を決めておくことが東口の公共公益の役割としては重要だと思う。</p>
森本委員	<p>工業団地ができてから30年がたっているが、新たにこれを作っていたらなければ困るという施設は思い浮かばない。工業団地の中にも会議室や大ホール、体育館があるが利用率は非常に低く、新たに会議室を作っても使わないが、産業の活性化に資することができるというのは、どのようにするのか実感がわからない。</p>
古池会長	<p>今のご意見につきましては、この後の議題で議論を深めていきたい。</p>
<p>議事（2）宇都宮駅東口に導入する中核機能の可能性について</p>	
柿沼委員	<p>コンベンション機能について、キャパシティはどれくらいを考えているのか。</p>
事務局	<p>コンベンション施設の想定される施設内用・規模について、大ホールは1,000～1,200人が一度に入れる平土間式1,500㎡を想定している。併せて、分科会に対応できるものとして、700人程度が入れる中ホールや大小10室程度の会議室を兼ね備え、2,000人以下の中小規模の全国会議を主要なターゲットとして考えている。</p>
柿沼委員	<p>法人会青年部の全国大会が約2,000人であり、その法人会の親会が近々開催されるかもしれない。しかしながら、将来における人口減少も考えていかなくてはならない。</p>
古池会長	<p>大ホールと中ホールを一緒に使い同時に2,000人を収容することは可能なのか。</p>
事務局	<p>大ホールと中ホールは分けられており、一度に2,000人を収容することはできない。</p>
古池会長	<p>2,000人同時に収容して開会式等を行う場合には、文化会館を使い、分科会を東口で行うようになるのか。人口減少については、交流人口と居住人口で捕らえ方が違うが、コンベンションの場合一時的に人が集まるものであり、問題はないと思われる。</p>
事務局	<p>宇都宮で5,000人規模の施設は難しいが、目安として2,000人と考えており、今後施設配置や使い勝手など詳細をつめた上で決定していく。</p>
中津委員	<p>宇都宮の文化会館の稼働率と県の総合文化センターの稼働率を比べたときに文化会館の稼働率が高いのは、駐車場があるためであり、駅東口において、大ホールの利用と一般民間企業による集客が重なったときに交通のアクセスに対してどう対応していくか考えなくてはならない。大ホールとの利用が重なる場合、お客様が入りたくても入れない状況となる可能性があり、三次産業的な商業施設においては、それを嫌がることから、民間施設との棲み分けを検討いただく必要がある。また、アフターコンベンションにおける鬼怒川温泉へのアクセスがないことも問題である。</p>
南木委員	<p>駅前の周辺駐車場においては、早めに行かないと置けないという状況であるが、駅前の施設だから駐車場はいらない考えなのか。</p>
古池会長	<p>どの程度の方が車で来られるかなど、もう少しつめる必要がある。</p>

事務局	駅東口の整備においては、すべての方が車で来ることを考えているのは、この開発はできないと考えており、新たな交通システムも含め公共交通の利用を前提に考えていかなければならない。これまでの計画においては、大規模な施設計画であったこともあり、かなり広い駐車場を想定していた。今後においては、ニーズ調査も含めて引き続き検討していきたい。
大森委員	アンケート調査結果においては、コンベンション施設の利用意向が強いとあるが、東市民活動センターの利用状況を見るとギャップが大きい。ここには利用料や使い勝手などの様々な要因があり、そこが見えてこなければ難しいところがあるのではないかなと思う。医学系の学会において、県内で行われているものがあり、そういったものについては、持ってこれるかもしれないが、今まで使われていた施設がどう使われていくかなど行政に負担がかかってくる可能性もあり、トータルで考えていく必要がある。
事務局	東市民活動センターの利用状況からコンベンション施設の今後の利用見通しを出させていただいたが、料金設定や駐車場などトータルで考えてくべき事項については、今後とも様々なデータ等を踏まえながら検討していく。
古池会長	他都市の事例においても利用料にばらつきがあり、それによって利用率も変わってくるのではないかなと思う。
事務局	既存施設との役割分担については、今後とも検討していく。
林委員	施設を造るためのデータや理論付けとなっている。既存施設はどこも必死に維持管理を行っており、県においても財団の統合など赤字をどう対処するか必死になっている。需要等の相対数がどのようになるのかも含め、もっと厳しく考えていく必要がある。造る理論だけではなく想定されるデメリットをひとつひとつ洗い出すとともにひとつひとつ答えを出していく必要がある。宇都宮をどういう街にしたいのか、コンベンションを作ったら宇都宮がすばらしくなるのかなどを含め、未来のことをよく考えるべきだと思う。アンケートについて、施設を利用しますか、しませんかではなく、いくらなら利用しますかなどもっと違ったりサーチをするべきであり、それによって見えるものが違ってくる。造る側だけの話ではなく利用する側の話も踏まえた精査をしていただきたい。
古池会長	造るだけではなく、造った後どう活用していくかも含めて考えていく必要がある。
議事（３）導入機能の抽出等について	
酒井委員	宇都宮の顔作りとして、今までの概念と違ったコンベンションとするなど、市民が誇れるような施設を考える必要がある。また、国際的な設計コンペを実施するなど話題づくりをリスクがあっても挑戦する必要があるのではないかなと思う。
萩委員	抽出された機能については、必要なものではあるが、東口の開発は、産業からは切り離せないと思う。ただのコンベンション施設では外から入って来るだけであり、今までと同じになる。シティセールの効果を持つような機能を持たせるためには、産業に近づいていけるような機能を強く押さなくては特色が出ないのではないかなと思う。
安藤委員	コンベンションには課題がいくつかあり、デベロッパーの方から見たときに駐車場がマストであったり、アフターコンベンションにおいて、宿泊施設や飲食施設の整備が

	<p>必要でということ、コンベンション施設に必要な機能を一体的に持ってきた場合に交流プラザというものをどこに置くのかが不明であり、コンベンション施設と一緒に建物の中に造ろうとしているのか、別の建物として持とうとしているのか理解ができない。</p>
事務局	<p>資料での説明が足らなかったが、(仮称)広域交流プラザがこれまで説明させていただいた会議中心型のコンベンション施設となる。</p>
古池会長	<p>コンベンション施設だけでは、利用者や学会のためのものであり、市民のための憩いの場となるような補完機能を考える必要があるが、コンベンション施設とどううまく共存できるかや相乗効果を発揮できるかなど議論を進めていきたいと思う。</p>
今井委員	<p>コンベンション施設の利用価値は非常に高いと思う。また、駅前であることから、車での利用はそれほど考えなくていいのではないかと思う。東市民活動センターの稼働率を見て企業利用が多いと感じ、駅前にこういった施設ができるということはいいことだと思う。企業や医学関係の方の会合などが相当あると見込まれることもあり、期待している。</p>
須賀委員	<p>本日の資料において、平土間式コンベンション施設の需要が確認できたことはよかった。既存のマロニエプラザの展示場であるとか、文化会館や文化センターのホールと機能が重ならず相乗効果が発揮できるのではないかと思う。これからの検討として、コンベンション施設ができることによって市民あるいは県民にどういった効果があるのかを考える必要がある。単に人が来て物を買ったり食べたりすることだけではなく、コンベンションで人が集まることによって県内にある自動車や光、航空機、薬学などの産業立地がさらに進むなどの効果や、アフターコンベンションとして交通機関を整備することによって市内も含めた県内の観光地にどれぐらい波及効果が出てくるのか、あるいは効果を発揮するためには何が必要か考える必要がある。また、コンベンションの補完機能として、民間事業として成り立つのは、ホテルであり、お土産を買ったり食事をしたりする商業機能である。さらに広域交流プラザが将来的に経済波及効果を発揮するため、例えば本市の産業振興を支援する施設であるとか、県内の高等教育機関とのビジネスマッチングするような施設など公共がやるべき機能もある。広域交流プラザがどのような経済波及効果があるかを考えた上で、次の段階において相乗効果が発揮できるような市民向けの施設を検討すべきである。</p>
古池会長	<p>市民の立場からも相乗効果がある施設についてさらに議論を進めていかなければならないと思う。宇都宮では住めば愉快だ宇都宮をブランドメッセージとしているが、駅東口が宇都宮のひとつの新しい核のとして、市民にも親しまれ、外からも憧れを持って見られるまさに市民が誇れるものになっていければいいと思う。コンベンション施設については、これまで事務局において調べていただいた事例や需要予測によってある程度認識はできたと思うが、必要な機能も含め、引き続き議論していきたい。</p>
石井委員	<p>公共としての補完機能については、これから考えていくということでもいいのか。</p>
事務局	<p>今回は、中核となるコンベンションを中心にご意見をいただいたが、そのほかの子育てや市民の文化、産業などの機能については次回にまた議論を進めたい。</p>
石井委員	<p>公共としての補完機能については、栃木県との連携を是非考えていただきたい。</p>

古池会長	県と市の連携は一番重要であると思っている。
林委員	稼働率というのは、どういった計算の方法なのか。
事務局	文化会館や文化センターの稼働率の考え方については、ホールにおいて、朝の利用、昼の利用、夜の利用に分けられ、そのどこかで1回使われればその日の稼働率を1として考えられている。
その他	
事務局	今後の日程だが、本日いただいた意見を踏まえた検討を進めていく。次回は11月下旬の開催を予定している。 懇談会については、2ヵ年の計画で東口整備についてご意見をいただいているが、目標として今年度内にあと2回程度実施し、駅東口地区整備の方向性として提言をいただきたいと考えている。
古池会長	以上で第3回宇都宮駅東口地区整備推進懇談会を終わりにする。